

平成 23 (2011) 年度のあゆみ

平成 23 年度の始まりは前月の中旬に起きた東日本大震災に始まりました。平成 23 年 3 月 11 日(金)14 時 46 分、マグニチュード 9 の大地震が宮城県牡鹿半島沖を震源として「東日本大震災」が発生、大津波や火災などにより、多くの方々の尊い命を亡くしてしまいました。

本学園からも 6 名、うち聖和短大からは 2 名の方がお亡くなりになりました。哀悼の意を心から表します。当時短大にいた教職員はあまりの揺れの激しさになすすべがなく、揺れが収まった後校舎を巡回して学生の安否、建物の被害状況を確認するのが精一杯でした。学内で避難した学生は当日の夜 22 時ごろには友人のアパートなども含めて全て帰宅することはできましたが、電話がつながらず、どうすることもできない状況でありましたが、仙台港をはじめ海岸沿いに大津波が来ているという情報はラジオやスマホで確認できたものの、被害の規模は想定もできないほど大きな津波でした。

翌日、かろうじて緊急メールによって学生の安否確認を行いました。1 週間後の 3 月 18 日の卒業式中止する情報などは放送局に出向いての連絡しかできない状況で、新年度の入学式も中止せざるを得ない状況でしたが、授業再開のめどが立った 5 月 5 日に入学式を開催することができました。

残念ながら写真を撮るまでの余裕はなく、亡くなった方々のご冥福を祈ったことだけが思い出されるような悲慘な思い出であります。このことを後世まで忘れることなく、常に災害に備えておくことの大切さを思い知らされました。

その後も、授業も延び延びになり、本当に落ち着かない年でありましたが、YOSAKOI をはじめとしてバレーボール大会、いずみ絆プロジェクトに 3 団体が選定されるなど、後期になってやっと授業や地域貢献活動が本格的に行われるようになりました。

平成 23 年 3 月 13 日



東日本大震災の翌日、図書館では本が見るも無残に崩れ落ちた状況。このほか体育館の天井や照明が落ちるなどの被害がありました。

平成 23 年 3 月 29 日



若林区内の被災した特別養護老人ホームや東松島市、石巻市などの避難所に製菓系で作った焼きたてパンの差し入れを行いました。

平成 23 年 4 月 2 日



ガソリン不足のため遠くまで出かけることができませんでしたが、多賀城市立城南小学校の避難所にも焼きたてのパンの差し入れを行いました。

平成 23 年 6 月 16 日



登校した学内での介護の実習、皆さんこの頃にやっとはつらつと授業ができるようになりました。

平成 23 年 6 月 25 日



協和会総会で、亡くなった学生に哀悼の意を表するとともに、被災後の状況説明を兼ねて鎌田文惠学長があいさつされました。

平成 23 年 7 月 5 日



被災後初めての全校で行った防災訓練は真剣そのものでした。

平成 23 年 7 月 24 日



被災後初めて開催されたオープンキャンパスは活気に満ちたものになりました。

平成 23 年 8 月 2 日



キャリア科では授業開始がずれ込んだため「先輩訪問」は、8 月になってしまいました。

平成 23 年 8 月 25 日



時期的に早かったものの、内定者発表会を開催することができました。

平成 23 年 9 月 10 日



「みやぎ夢灯花」で被災地の一日も早い復興を願って参加者で 1 千本のロウソクに点火しました。

平成 23 年 9 月 25 日



仙台放送まつりで、張り切って踊る姿も見られるようになってきました。

平成 24 年 3 月 7 日



厚木市にある湘北短大と合宿形式で就職研究会が賑やかに開催されました。